

2020年度 研究報告

学習者用デジタル教科書に関する調査結果を 日本教育工学会 2021年春季全国大会で発表しました

先端教育研究開発コアデジタル教科書チームが中心となって実施した学習者用デジタル教科書に関する調査研究の成果を、2021年3月6日（土）～3月7日（日）に開催された日本教育工学会 2021年春季全国大会（オンライン開催）において、発表しました。



<あらまし>学習者用デジタル教科書(DT-L)の普及・活用促進に向けた教員研修をデザインするために、DT-Lの機能に対して教員が抱く活用期待を構造的に把握した。小中学校の教員1,228名(小学校526名,中学校702名)を対象に、DT-Lの計25機能に対する活用期待を調査し、因子分析を行った。その結果、「付加的な情報アクセス・制御機能への期待」(9機能)、「紙面の視認性向上機能への期待」(9機能)、「アノテーション機能への期待」(5機能)、「文章読み上げ機能への期待」(2機能)の4因子が抽出された。教員研修のデザインでは、これらの機能のまとまりごとに、研修コンテンツを構成することで、受講生のニーズに対応しやすくなる可能性のあることが示唆された。

森山潤・和田直久・殿岡貴子・徳島祐彌・阪上弘彬・永田智子(2021)学習者用デジタル教科書の機能に対して教員が抱く期待感の構造,日本教育工学会2021年春季全国大会(第38回大会)講演論文集,423-424

